

地方創生拠点と防災拠点の形成のための「道の駅」整備と機能向上の推進

群馬県の現状

「道の駅」は、24時間利用可能なトイレや駐車場を提供する【休憩機能】、地域の情報を発信する【情報発信機能】、まちとまちが手を結んで活力ある地域づくりを行うための【地域の連携機能】の3つの機能を併せ持つ休憩施設です。平成26年度より、地域活性化の拠点となる「道の駅」を国土交通大臣が選定し、重点的に支援する取組が始まり、県内では全国モデル「道の駅」として「川場田園プラザ」が、重点「道の駅」として、「上野」及び「しもにた」が選定されています。また、近年では「道の駅」を核にした地方創生の拠点及び災害時の広域的な防災や復旧・復興拠点としての機能に注目が集まっています。

課題

地方創生拠点としての利便性向上や、災害時の広域的な防災や復旧・復興拠点としての機能強化を図る必要があります。

目的

地域創生拠点である「道の駅」の更なる利便性の向上を図るとともに、防災拠点としての機能の増加を図ります。

事業の指標

指標1 「道の駅」川場田園プラザの利用者数

指標2 「道の駅」上野の利用者数

指標3 「道の駅」しもにたの利用者数

成果と達成度報告

指標1:「道の駅」川場田園プラザの利用者数

	目標	実績	増減
当初値(H27年)		180万人	
実績値(R元年)		215万人	当初値より35万人増加
目標値(R2年末)	200万人	181万人	当初値より1万人増加

指標2:「道の駅」上野の利用者数

	目標	実績	増減
当初値(H27年)		5.8万人	
実績値(R元年)		12万人	当初値より6.2万人増加
目標値(R2年末)	7万人	10万人	当初値より4.2万人増加

指標3:「道の駅」しもにたの利用者数

	目標	実績	増減
当初値(H27年)		14万人	
実績値(R元年)		22万人	当初値より8万人増加
目標値(R2年末)	18万人	17万人	当初値より3万人増加

R元年度末時点で、全ての「道の駅」において、指標である利用者数の目標値を達成することができた。(R2年度の減少は新型コロナウイルス感染症の影響によるもの)

地方創生拠点と防災拠点の形成のための「道の駅」整備と機能向上の推進

整備効果事例

事例① 「道の駅」川場田園プラザ

■位置図



■整備効果



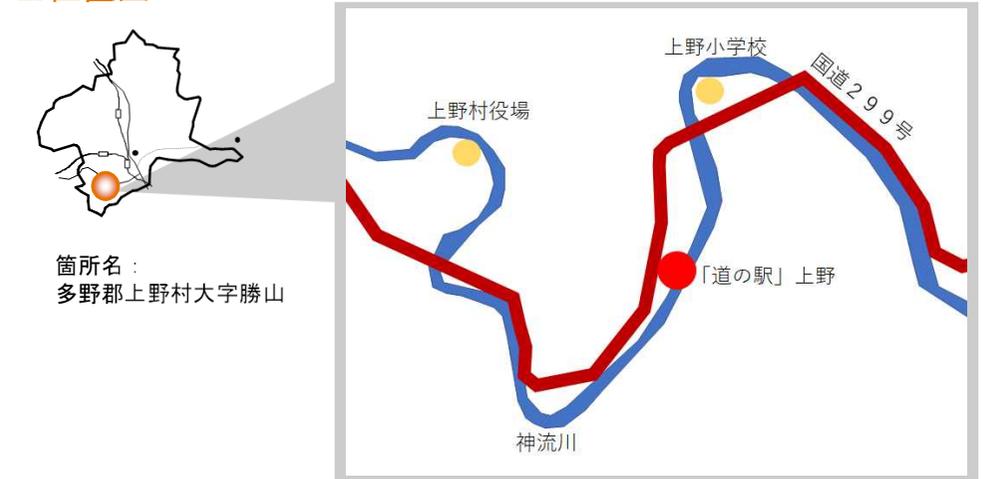
個室が少なく、照明も暗く利用しづらいトイレでした。



個室数を増やし、照明を明るくすることによって、利用者が使いやすい施設になりました。

事例② 「道の駅」上野

■位置図



■整備効果



駐車場が狭く、「道の駅」としての「休憩機能」が十分に提供できていない状態でした。



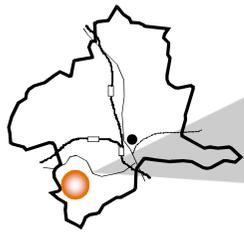
駐車場を広くすることによって、「休憩機能」が拡充され、また、防災拠点としての機能も強化されました。

地方創生拠点と防災拠点の形成のための「道の駅」整備と機能向上の推進

整備効果事例

事例① 「道の駅」しもにた

■位置図



箇所名：
甘楽郡下仁田町大字馬山



■整備効果

整備前



駐車場が狭く、「道の駅」としての「休憩機能」が十分に提供できていない状態でした。

整備後



駐車場を広くすることによって、「休憩機能」が拡充され、また、防災拠点としての機能も強化されました。